

中間貯蔵施設事業において 発生した事故事例と対応等について (2024年8月環境安全委員会報告以降)

2025年4月
環境省

事業において発生した事故事例と対応等（1／2）

	【事例の内容】	【主な発生要因】	【主な再発防止策】
交通事故	1 委託運搬車両が路上の落下物（鋼板片）巻き上げ、後続車にあたり、乗員の右腕部を裂傷	・ 路上の落下物 ・ 落下物の巻き上げの危険予知が不足	・ 落下物ハザードマップ作成 ・ 落下物の多い場所での慎重な運転
	2 輸送車両（実車）が町道走行中にガードレールに接触し、ガードレールに接触痕	・ 見通しの悪い上り坂のカーブで、注意が前方に集中し左側への注意が不足	・ 運転管理者による添乗訓練実施 ・ 当該箇所へ音声ナビ（事故有り）の追加
	3 業務車両が給油のため右折時に対向車両と衝突し、対向車両の左前面を損傷	・ 右折時の前方不注意	・ ガソリンスタンドへの右折進入禁止 ・ 右折時の前方確認徹底
	4 輸送車両（実車）が右側側溝へ脱輪し、側溝を損傷	・ 小動物の飛び出しを避け右側にハンドル操作 ・ ハンドル操作後に後方を気にして前方確認が不足	・ 運転適性検査を実施し、結果に基づいた個別指導 ・ 事故情報音声ナビによる注意喚起追加
	5 輸送車両（実車）が交差点で停車中の輸送車両（実車）に追突	・ 坂道発進補助装置の不作動 ・ サイドブレーキ操作を未実施	・ 停止時に坂道発進補助装置及びサイドブレーキを確実に作動させるよう徹底 ・ 事故情報音声ナビによる注意喚起追加
	6 通勤車両が東北中央道の凍結路面でスリップし、ガードレールを損傷	・ 路面状態の危険（凍結）予測が不足 ・ スタッドレスタイヤが摩耗	・ かもしれない運転の徹底 ・ スタッドレスタイヤの摩耗管理を実施
輸送車両の故障等	1 ①輸送車両（空車）が常磐道でルート逸脱 ②輸送車両（実車）が国道4号でルート逸脱	①ハンズフリー通話（私用）に気をとられ降りるべきインターチェンジを通過 ②・ 音声ナビの一時的不調により音声案内が不作動 ・ 案内標識を見たが音声ナビを過信し通過	①業務応答を除きハンズフリー通話の利用禁止 ②輸送ルートを熟知させたうえで、音声ナビを過信せず案内標識を確認する走行を徹底
	2 輸送車両（実車）が走行中にプロペラシャフトを脱落し走行不能となり、レッカー車牽引により保管場へ移動	・ フランジナットの摩耗による隙間の拡大 ・ 異常兆候の確認不足	・ 異常兆候（異音）を感知するために車庫内を低速で走行し、車外の点検員が異音の有無を確認

令和6年8月1日～令和7年3月31日までに発生した事例

事業において発生した事故事例と対応等（2／2）

	【事例の内容】	【主な発生要因】	【主な再発防止策】
作業場での事故等	1 重機で挟んだ角パイプが作業員の右足にあたり、右足を打撲	・別作業員から不具合対応として受けた予定外の作業（角パイプ切断工具のトラブル対応）実施	・予定外作業の禁止 ・元請現場巡視の強化
	2 スクリーニング作業員がダンプ荷台に乗り移る際に転倒し、股関節部を骨折	・乗り移り時の3点支持を未実施 ・荷台からの乗り移り地点にあった押さえ土のうを避け、不安定な姿勢で乗り移りを実施	・3点支持の徹底 ・乗り移り地点に物を置かないよう指導
	3 作業エリア内の架空線の切断	・架空線接触防止の対策不備	・危険予知を含む架空線対策の徹底 ・架空線事故防止チェックシートで、切断危険のある対象架空線の特定強化と防御対策の徹底
	4 作業員がアームロール車のコンテナ荷台から転落し、脊椎を骨折	・転落するリスクを軽視し荷台上で作業実施 ・長尺の積み荷に押され観音扉が突然開放	・コンテナを地上に降ろし、地上で作業実施 ・長尺物の荷積み受け入れを禁止
	5 作業員がリース敷鉄板の現況確認中に法面から側溝に滑落し、肋骨を骨折	・現況確認のために雑草が繁茂した法面に進入 ・足下への注意が不十分なまま歩行	・危険箇所を抽出し、足下が視認できるよう草刈りを実施 ・現地KY（危険予知）を追加実施
	6 土壌貯蔵施設の覆土法面に防犯カメラ支柱（単管パイプ）を打ち込み、遮水シートを損傷	・作業内容の確認、調整等が不足した状態での作業着手 ・作業箇所の構造に関する理解の不足	・作業に係る指示内容の明確化と複数人での共有・確認の徹底 ・施設の構造等に関する教育の徹底
	7 作業員がユニック車アウトリガーを格納作業中に指を挟み、人差し指を骨折	・アウトリガーの整備不足（格納途中で重くなる） ・専用把手を持たず無理な姿勢で格納作業を実施	・点検項目の追加と異常発生時の使用中止徹底 ・無理な姿勢で作業を実施しないよう徹底
	8 監視カメラ用ソーラーバッテリーの電源制御ボックスから発火	消防及び（独）製品評価技術基盤機構による調査結果 ・リチウムイオン電池からの出火であることは判明 ・リチウムイオン電池からの出火要因は不明	・発火した製品と同タイプのソーラーバッテリーは別タイプのソーラーバッテリーに置き換えを実施（電池は鉛蓄電池又は乾電池を使用）

令和6年8月1日～令和7年3月31日までに発生した事例

交通事故（運搬車両による人身・物損事故）

事例の概要

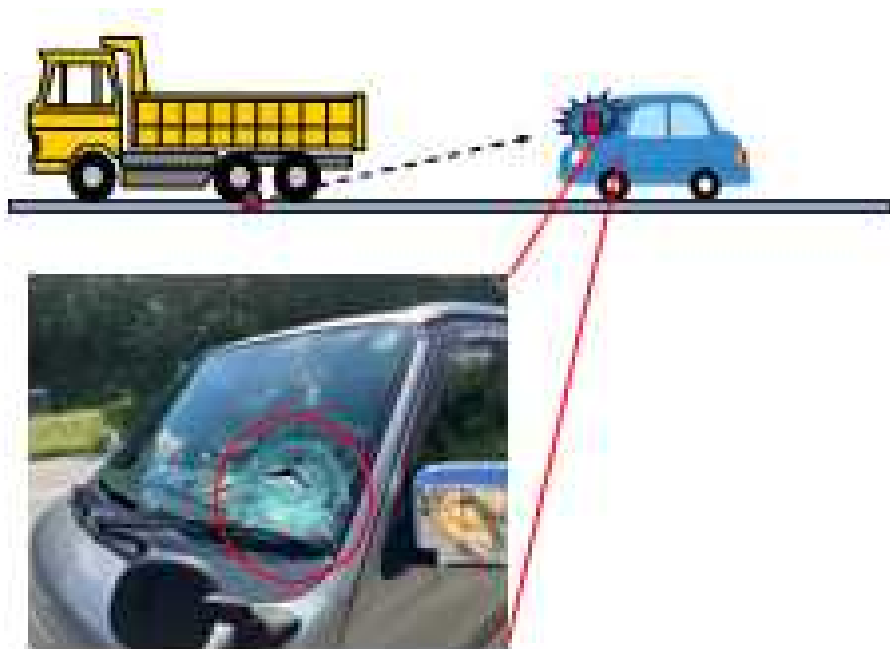
委託運搬車両が路上の落下物(鋼板片)巻き上げ、後続車にあたり、乗員の右腕部を裂傷

2024年9月2日 9時50分頃 <西松建設(株)>

当該車両が中貯内に戻るため国道6号を走行中、井出川橋上で落下物(鋼板片)を踏み後輪タイヤがバーストした際、踏んだ鋼板片を巻き上げ後続車両のフロントガラスを突き破り、助手席乗員が負傷した。

発生要因

- ・ 路上の落下物
- ・ 落下物の巻き上げの危険予知が不足



【事故現場と事故車両】

再発防止策

- ・落下物ハザードマップ作成
- ・落下物の多い場所での慎重な運転



【対策：ハザードマップ】

交通事故（輸送車両による物損事故）

事例の概要

輸送車両（実車）が町道走行中にガードレールに接触し、ガードレールに接触痕

2024年10月16日 12時40分頃 <（株）日新土建>

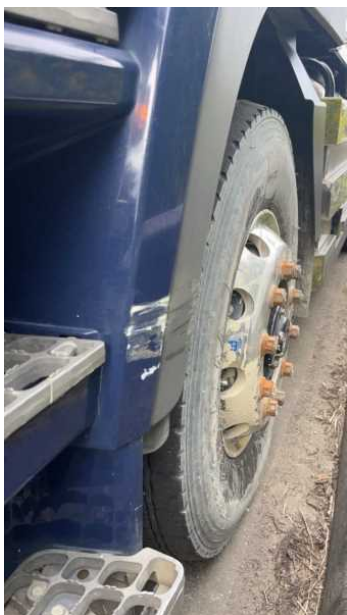
浪江町南津島仮置場②から長者原保管場 f へ輸送中の22号車（実車）が、双葉町町道原田・目迫線を走行中、輸送車両左側をガードレールに接触させ、ガードレールに接触痕を作った。

発生要因

- ・ 見通しの悪い上り坂のカーブで、注意が前方に集中し左側への注意が不足

再発防止策

- ・ 運転管理者による添乗訓練実施
- ・ 当該箇所へ音声ナビ（事故有り）の追加



【事故現場と事故車両】



【対策：ハザードマップ】

交通事故（業務車両による物損事故）

事例の概要

業務車両が給油のため右折時に対向車両と衝突し、対向車両の左前面を損傷

2024年10月22日 9時35分頃 <JESCO>

- 当該車両は国道6号を南下中に、給油のため右折でガソリンスタンドに進入しようとして対向車と衝突した。

発生要因

- 右折時の前方不注意

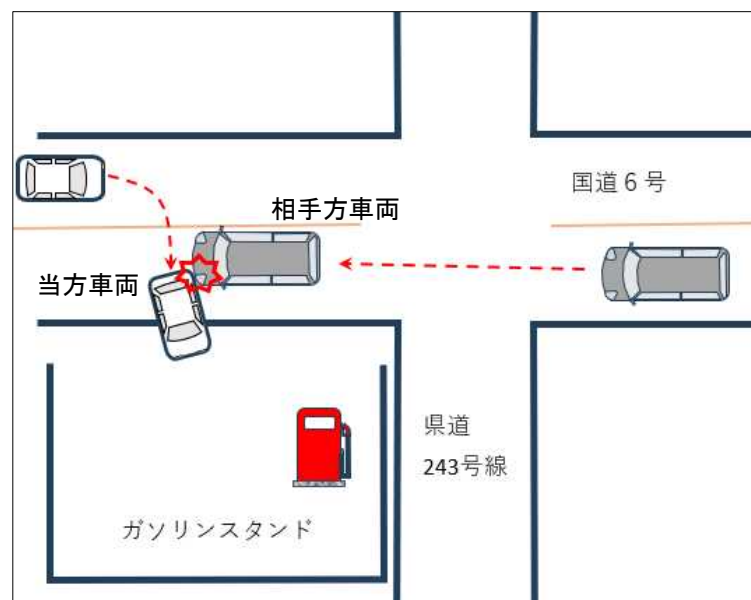
再発防止策

- ガソリンスタンドへの右折進入禁止
- 右折時の前方確認徹底



出典: 地理院地図 事故場所追記

【事故発生場所】



【事故発生状況図】



【相手方車両】

交通事故（輸送車両による物損事故）

事例の概要

輸送車両（実車）が右側側溝へ脱輪し、側溝を損傷 2024年11月11日 11時00分頃 <(株)日新土建>

- ・ 当該車両は、飛び出してきた小動物を避けるためハンドルを右に切った後で小動物の巻き込みが気になりサイドミラーを注視したまま走行し、側溝に脱輪して車両の右前輪タイヤをバースト、側溝を破損させた。

発生要因

- ・ 小動物の飛び出しを避け右側にハンドル操作
- ・ ハンドル操作後に後方を気にして前方確認が不足

再発防止策

- ・ 運転適性検査を実施し結果に基づいた個別指導
- ・ 事故情報音声ナビによる注意喚起追加



【事故発生場所と輸送車両の経路】



【パンクしたタイヤ】



【破損した側溝】

交通事故（輸送車両による物損事故）

事例の概要

輸送車両（実車）が交差点で停車中の輸送車両（実車）に追突

2024年11月18日 8時45分頃 <(株)日新土建>

- ・ 浪江町南津島仮置場②からの輸送車両5号車（実車）は国道114号の室原交差点の緩やかな下り坂で停止後に動き出し前方に停車していた4号車（実車）に追突した。

発生要因

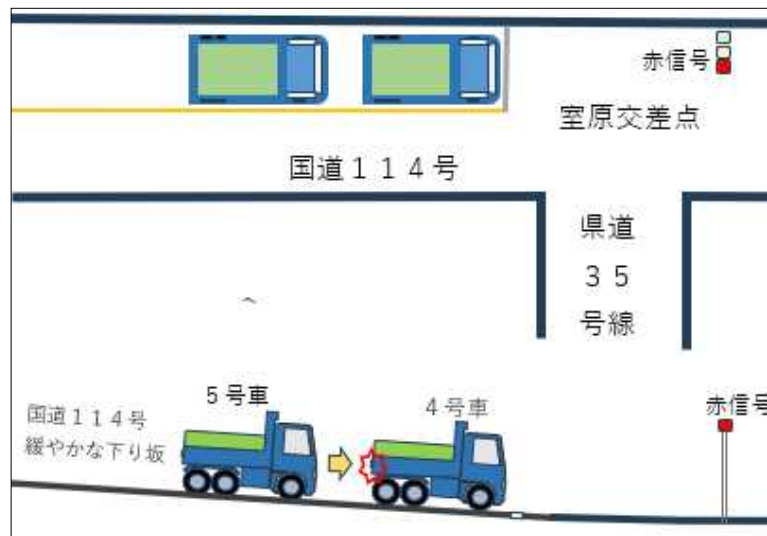
- ・ 坂道発進補助装置の不作動
- ・ サイドブレーキ操作を未実施

再発防止策

- ・ 停止時に坂道発進補助装置及びサイドブレーキを確実に作動させるよう徹底
- ・ 事故情報音声ナビによる注意喚起追加



【事故発生場所】



【事故発生状況図】



フロントガラス損傷

【追突車両】

交通事故（通勤車両による物損事故）

事例の概要

通勤車両が東北中央道の凍結路面でスリップし、ガードレールを損傷

2024年12月6日 5時26分頃 <福浜第一建設(株)>

- ・ 福島方面から浪江町の所属会社に通勤のため東北中央道を相馬方面に向けて走行中に凍結路面でスリップし中央分離帯に接触後、ガードレールを損傷した。

発生要因

- ・ 路面状態の危険（凍結）予測が不足
- ・ スタッドレスタイヤが摩耗

再発防止策

- ・ かもしれない運転の徹底
- ・ スタッドレスタイヤの摩耗管理を実施



【事故発生場所】



【ガードレール損傷箇所】



【事故車両】

輸送車両の故障等（ルート逸脱）

事例の概要

①輸送車両(空車)が常磐道でルート逸脱

2024年10月22日 11時40分頃<(株)日新土建>

1回転目の輸送終了後、2回転目の輸送のため仮置場へ戻る際、常磐自動車(下り)浪江ICで降りるべきところを直進通過した。

②輸送車両(実車)が国道4号でルート逸脱

2025年2月13日 11時11分頃 <(株)日新土建>

二本松市ため池現場の輸送車両4号車(実車)は国道4号を走行中、二本松ICへ行くべきところをIC入り口道路に入らず、国道4号を直進しルートを逸脱した。

発生要因

①
ハンズフリー通話（私用）に気をとられ降りるべきインターチェンジを通過

②
・音声ナビの一時的不調による音声案内不作動
・案内標識を見たが音声ナビを過信し通過

ルート逸脱後の対応

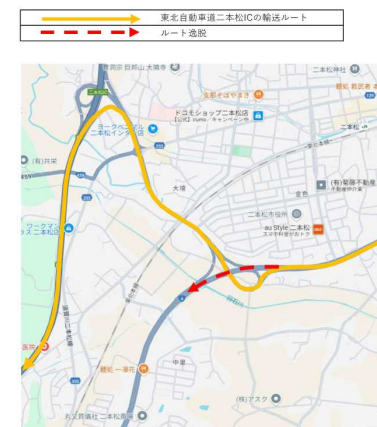
- ①一つ先の南相馬ICで降り、料金所出口のNEXCO駐車場に待機した。
- ②国道4号から左折した市道の安全な場所に停車・待機した。

再発防止策

- ①業務応答を除きハンズフリー通話の利用禁止
- ②輸送ルートを熟知させたうえで、音声ナビを過信せず案内標識を確認する走行を徹底



【事案①発生場所】



【事案②発生場所】

輸送車両の故障等（プロペラシャフト脱落）

事例の概要

輸送車両（実車）が走行中にプロペラシャフトを脱落し走行不能となり、レッカー車牽引により保管場へ移動
2024年12月2日 14時41分頃 < 戸田建設(株) >
保管場へ向かって大熊町町道西13号線を走行中にプロペラシャフトが落下し、エンジン動力が車輪に伝達されず走行不能になり、レッカー車牽引により保管場へ移動。

発生要因

- ・ フランジナットの摩耗による隙間の拡大
- ・ 異常兆候の確認不足

再発防止策

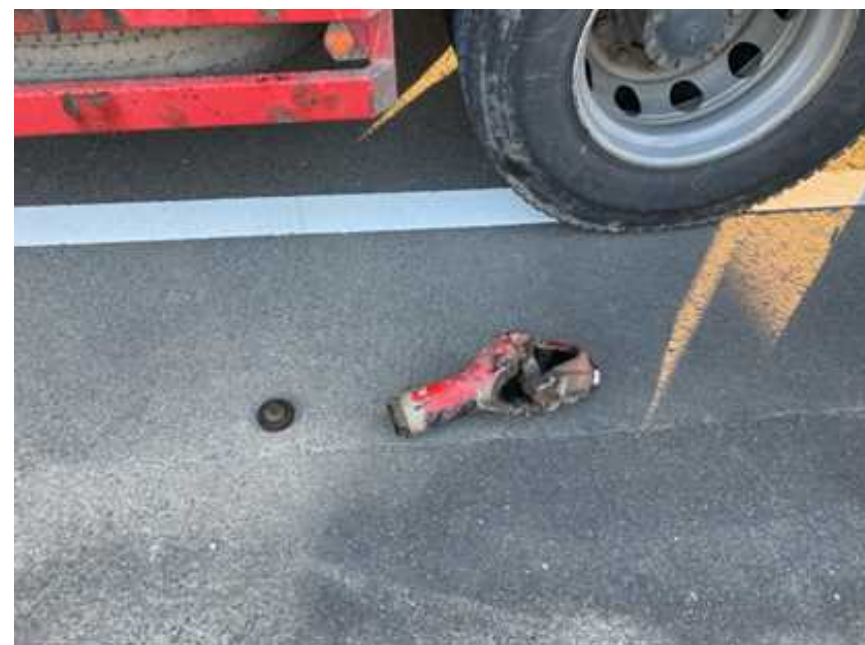
- ・ 異常兆候（異音）を感知するために車庫内を低速で走行し、車外の点検員が異音の有無を確認



出典：地理院地図 事故場所追記



【事故発生場所】



【脱落したプロペラシャフト】

作業場での事故等（角パイプによる脚の打撲）

事例の概要

重機で挟んだ角パイプが作業員の右足にあたり、右足を打撲

2024年8月8日 10時45分頃<鹿島JV>

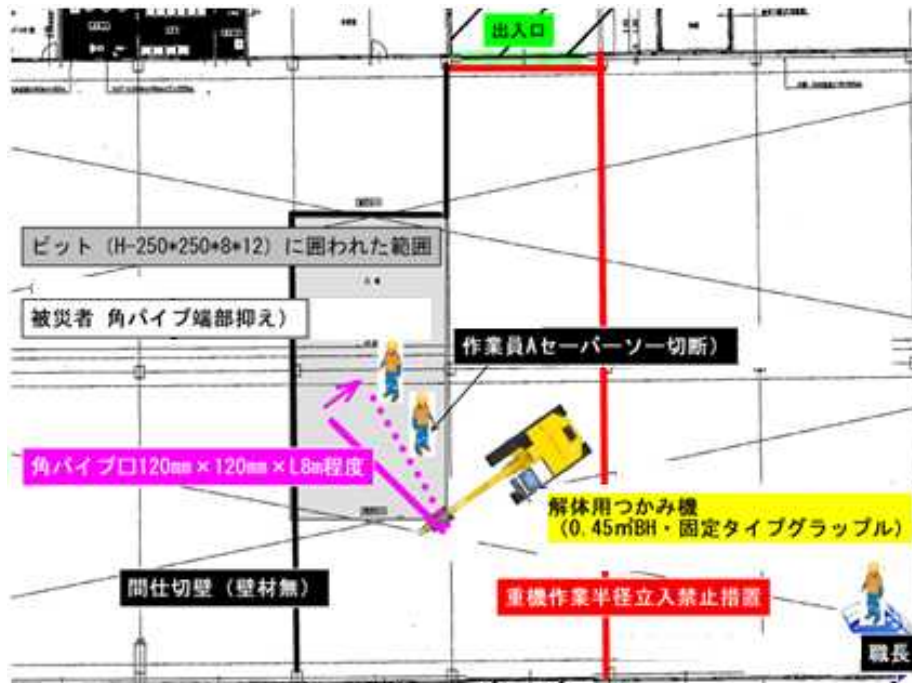
- 内装解体作業において、角パイプに噛み込んだセイバーソーを回収するために角パイプ先端を解体用つかみ機で挟んで持ち上げたところ、角パイプの他端が動いて他端を押さえていた作業員の足に激突した。

発生原因

- 別作業から不具合対応として受けた予定外の作業（角パイプ切断工具のトラブル対応）実施

再発防止策

- 予定外作業の禁止
- 元請現場巡視の強化



【災害発生状況平面図】



【災害発生状況写真(再現)】

作業場での事故等（転倒・骨折）

事例の概要

スクリーニング作業員がダンプ荷台に乗り移る際に転倒し、股関節部を骨折

2024年10月3日 16時20分頃＜JESCO＞

昇降ステップからダンプ荷台に乗り移ろうとした際に荷台の乗り移り地点にあった押さえ土のうを避けるために、通常より歩幅を広げ押さえ土のうを跨いで荷台に足を置こうとした。この際に体の支持が通常の3点支持から2点支持になりバランスを崩して転倒した。

発生原因

- ・ 乗り移り時の3点支持を未実施
- ・ 荷台からの乗り移り地点にあった押さえ土のうを避け、不安定な姿勢で乗り移りを実施

再発防止策

- ・ 3点支持の徹底
- ・ 乗り移り地点に物を置かないよう指導



土のうを跨いで足を置いた



右手を離して2点支持になった



バランスを崩した



転倒した



押さえ土のう

【事故発生再現写真】

作業場での事故等（架空線の切断）

事例の概要

作業エリア内の架空線の切断

電線への接近施工において、アームが届くバックホウ(0.45m³)を使用している状況下、架空線事故防止対策が万全ではない中で発生した重機接触による切断事故。

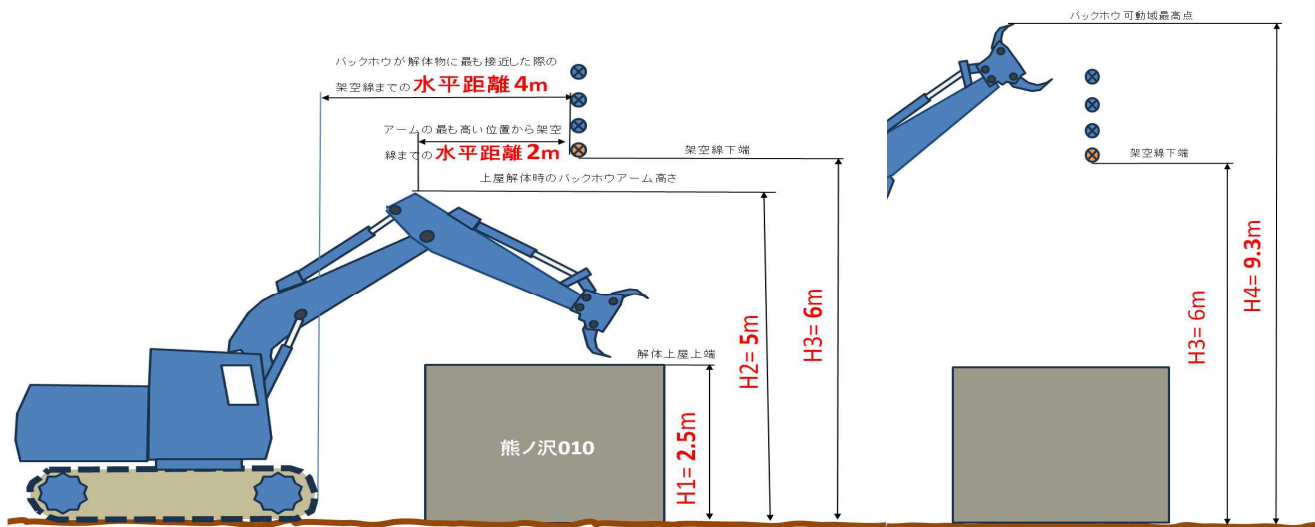
2024年10月22日 11時00分～30分頃 <(株)フジタ>

発生要因

- ・ 架空線接触防止の対策不備

再発防止策

- ・ 危険予知を含む架空線対策の徹底
- ・ 架空線事故防止チェックシートで、切断危険のある対象架空線の特定強化と防御対策の徹底



【バックホウの可動範囲】



【切断された架空線】

作業場での事故等（転落によるけが）

事例の概要

作業員がアームロール車のコンテナ荷台から転落し、脊椎を骨折

2024年11月6日 7時20分頃 <西松建設(株)>

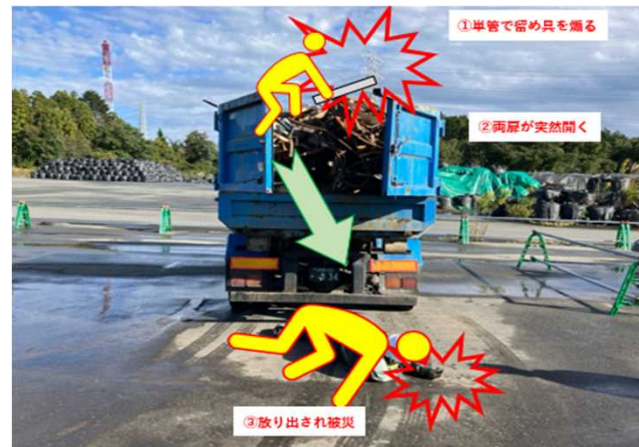
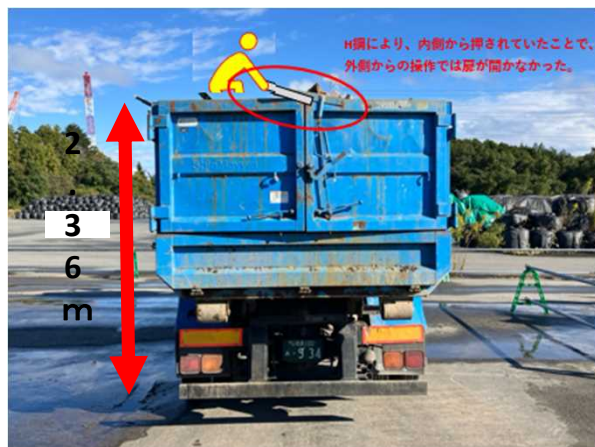
- ・ 地上からの操作で開かなかったコンテナの観音扉を荷台上から片方の扉を開けようとしたところ、両方の扉が突然開き転落した。

発生原因

- ・ 転落するリスクを軽視し荷台上で作業実施
- ・ 長尺の積み荷に押され観音扉が突然開放

再発防止策

- ・ コンテナを地上に降ろし、地上で作業実施
- ・ 長尺物の荷積み受け入れを禁止



地上操作で開かないことから荷台に上って右扉を開けようとした

突然両方の扉が開いて地上に転落した

扉を強く押し付け開操作の障害になった長尺鋼材

【転落時の状況】

作業場での事故等（側溝に滑落）

事例の概要

作業員がリース敷鉄板の現況確認中に法面から側溝に滑落し、肋骨を骨折

2024年11月10日 11時22分頃<JESCO>

リース敷鉄板の現況調査の一環として、敷鉄板の重なり有無を横から確認するため法面に降りたところ、コンクリート側溝に転落し、肋骨骨折の怪我を負った。

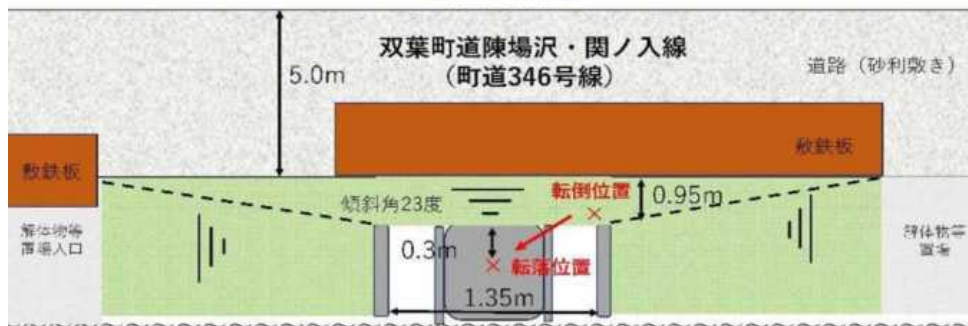
発生原因

- ・ 現況確認のために雑草が繁茂した法面に進入
- ・ 足下への注意が不十分なまま歩行

再発防止策

- ・ 危険箇所を抽出し、足下が視認できるよう草刈りを実施
- ・ 現地KY（危険予知）を追加実施

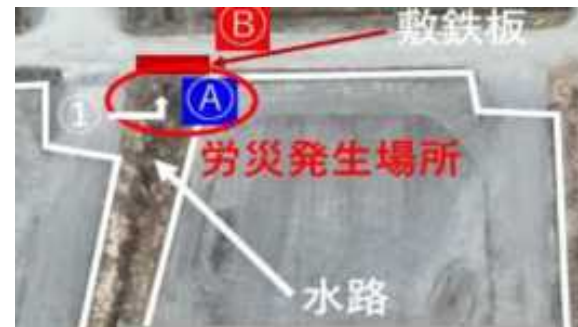
【平面図】



【断面図】



【事故発生再現図】



【水路周辺写真】



【水路部拡大写真】

【事故発生箇所】

作業場での事故等（遮水シートの損傷）

事例の概要

土壌貯蔵施設の覆土法面に防犯カメラ支柱（単管パイプ）を打ち込み、遮水シートを損傷

2024年12月25日13時00分～14時50分頃＜JESCO＞

防犯カメラの所定の撮影範囲を確保するため、防犯カメラ支柱用の単管パイプを覆土法面部に打ち込んだ際、単管パイプが覆土の下にあった上面遮水シート、法面遮水シートを貫通し、損傷させた。

発生原因

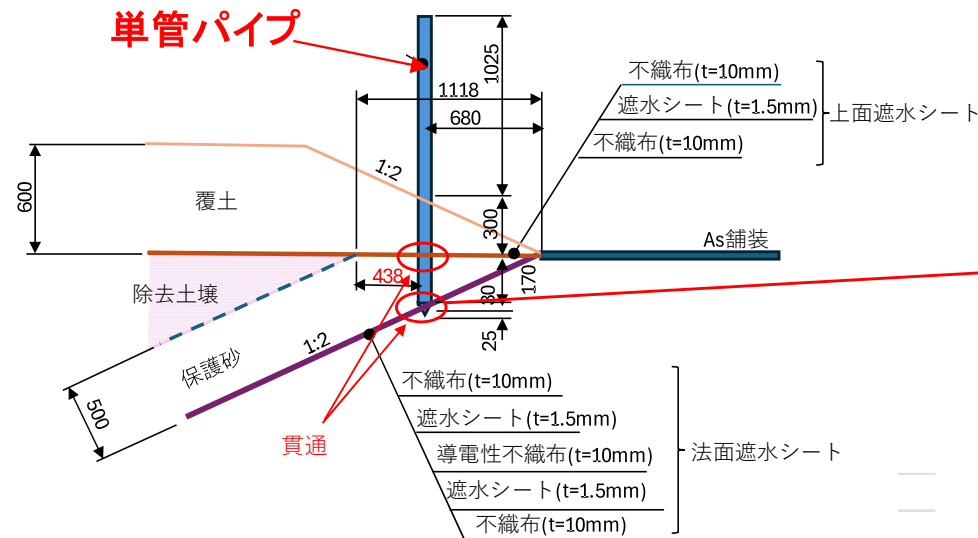
- ・ 作業内容の確認、調整等が不足した状態での作業着手
- ・ 作業箇所の構造に関する理解の不足

再発防止策

- ・ 作業に係る指示内容の明確化と複数人での共有・確認の徹底
- ・ 施設の構造等に関する教育の徹底



【防犯カメラ全景】



【事故状況図】



【法面遮水シート損傷部】

作業場での事故等（指を挟む）

事例の概要

作業員がユニック車アウトリガーを格納作業中に指を挟み、人差し指を骨折

2024年12月27日 11時22分頃＜鹿島JV＞

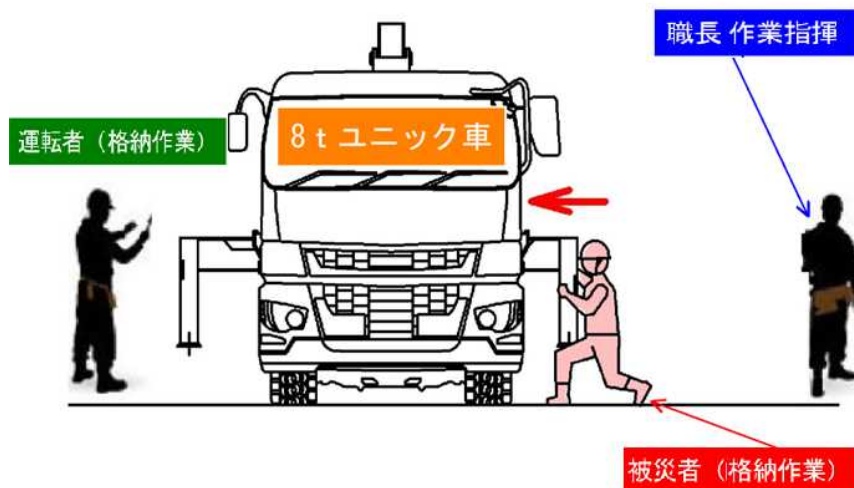
アウトリガー格納時にアウトリガーの動きが悪く格納できなかったことから、アウトリガー内側に左手を回し、体重を掛けて格納を試みたところ、急に動き出したアウトリガーと車体裏のガセットプレートとの間に人差し指を挟んで受傷した。

発生原因

- ・ アウトリガーの整備不足（格納途中で重くなる）
- ・ 専用把手を持たず無理な姿勢で格納作業を実施

再発防止策

- ・ 点検項目の追加と異常発生時の使用中止徹底
- ・ 無理な姿勢で作業を実施しないよう徹底



【事故発生状況図】



【事故発生再現写真】

作業場での事故等（電源制御ボックスから発火）

事例の概要

監視カメラ用ソーラーバッテリーの電源制御ボックスから発火 2025年3月2日 16時5分頃<鹿島JV>
工業団地保管場aの監視カメラ用ソーラーバッテリーの電源制御ボックスから白煙が上がり、消防の消火活動により鎮火した。

発生原因

- (独) 製品評価技術基盤機構の調査結果
- ・ リチウムイオン電池からの出火が判明
 - ・ リチウムイオン電池からの出火要因は不明

再発防止策

- ・ 発火した製品と同タイプのソーラーバッテリーは別タイプのソーラーバッテリーに置き換えを実施（電池は鉛蓄電池又は乾電池を使用）



【当該製品カタログ】



【正常品写真】



【当該発火品写真】



【対策品写真】

安全対策について① （作業員安全研修）

作業員研修

2022年度より、仮置場を含めて中間貯蔵施設工事に携わる全ての作業員を対象に安全研修を実施。
2024年度は3月末までに17回開催、計945名が受講。

<主な内容>

- ルール遵守の重要性・発生事事故事例を基に再発防止に重要となるポイントを周知。
- 通勤・帰宅時の交通事故の状況と交通安全の指導・教育を実施。
- 中間貯蔵施設事業は、地域の多大なご協力の下に実施されていることをあらためて説明。
- 本事業において発生した事故等の状況を説明し、労働災害含む危険予知の気付きを促す教育を実施。



作業員安全研修

安全対策について②（運転者研修）

新任運転者研修

輸送車両の運転者及び受注者職員等を対象に、中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る研修を実施。2024年度は3月末までに6回開催。

＜主な内容＞

- 福島県警察本部からの県内の交通事情、高速道路での交通安全対策、事故時の対応等について指導。
- 環境省から緊急時の対応に関するマニュアルの周知を行い、緊急時の迅速な通報・連絡訓練を実施。

現任運転者研修

輸送に従事している全ての運転者が毎年度の再研修として受講。2024年度は3月末までに9回開催。

＜主な内容＞

- 中間貯蔵施設工事・輸送は地域の多大なご協力の下に実施される事業であることについて、地元の方々から寄せられているご意見も含めて改めて説明。
- 中間貯蔵施設工事・輸送において発生している事故等の状況を説明。
- 自らの運転の自己評価や危険予知の気付きを促す教育を実施。



新任運転者研修



現任運転者研修

安全対策について③（協議会）

中間貯蔵工事等協議会

労働安全衛生・公衆災害・交通安全の情報交換と安全施工の向上を目的に2015年12月より開催。重大事故等の発生要因及び再発防止策等の共有と、安全課題に対するテーマを決め定期的に意見交換を行い、各現場における安全対策の強化・改善につなげている。

- ・ 2024年度は対面、Webにより8回開催した。至近の対面開催である10月15日には施設解体工事に伴う安全対策について意見交換を行った。

労働災害防止協議会

福島県労働局及び富岡労働基準監督署の指導により、中間貯蔵施設工事の安全管理の更なる向上を目的に、2020年9月より開催。

- ・ 2024年度は対面、Webにより8回開催した。至近の対面開催である10月15日には、安全対策の事例報告と労働安全施策の確認を行った。



10月15日 中間貯蔵工事等協議会



10月15日 労働災害防止協議会

安全対策について④（安全パトロール）

受注者と環境省職員による合同パトロール

受注者と環境省職員による合同の安全パトロールを定期的を実施。

- ・ 2024年度は7月9日、10月15日に実施した。10月15日のパトロールは施設解体現場と保管場の施工時の安全対策を重点的に実施した。

労働安全コンサルタントによるパトロール

通常の巡回パトロールとは別に、環境省職員と労働安全コンサルタントによる安全パトロールを実施。

- ・ 2024年度は新規受注者や過去に発生した事故の現場等を対象に月1回程度、現場の安全衛生管理状況の確認と指導を行っている。

走行状況のパトロール

速度超過や交通安全に注意すべき箇所等において、輸送車両等の（帰投時を含む）走行状況を確認。

- ・ 2024年度は富岡町、南相馬市、浪江町において実施した。
- ・ 警察署、環境省及び受注者合同による交通事故防止啓発活動を浪江町において2回実施し、交通安全意識の高揚、交通ルールの遵守を広く呼びかけた。



受注者と環境省職員による
合同パトロール



労働安全コンサルタントによる
パトロール



走行状況のパトロール

安全対策について⑤ （優良ドライバー表彰）

優良ドライバー表彰

運転手の安全意識とモチベーションの維持・向上のため、安全な輸送を100日以上行った者に、受注者を通じて優良ドライバー認定証（ヘルメット及び車両ダッシュボードに掲示）を交付することとしている。

※R6年度においては連続100日の工期がある事業者がおらず、該当者はなし。



金: 300日以上



銀: 200日以上300日未満



銅: 100日以上200日未満

優良ドライバー認定証
(安全輸送の継続日数ごとに3種類)



認定証の交付